

和光市政を耕す
和光市よりよい未来のために
みんなで新しい種を蒔こう！

たけちゃん通信

2015年
→
2018年

4年間のまとめ
&
ビジョン
特別号

“人がまちをつくる” “まちが人をつくる”

2011年、初当選させていただいたから2期8年間、吉田たけしは和光市政を耕したくさんの種を蒔いてきました。種を蒔いてもまだ芽が出ないもの、出かかっているもの、芽が出たものには花が咲き、大きな実になったもの、大きな木になったもの、たくさんあります。豊かな実りをみなさんで享受しましょう！今後さらにますます実り豊かな和光市のために、全力を尽してまいります。



吉田たけし

p r o f i l e



無所属

私が和光市に生まれ育ち、今年で57年になります。地域の皆様のご協力により、2期8年にわたって「和光市政を耕す」を合言葉に、市議会議員として和光市の発展に尽力して参りました。主要施策として注力してきた学校建設は、和光市の北、下新倉地域に平成28年4月1日「和光市立下新倉小学校」として開校することができました。今後も中学校建設を推進するとともに、福祉・医療・教育における負担軽減策の実現、女性や高齢者のさらなる就業支援、農業・商業のブランド化や観光PRを通じての経済基盤の構築、快適な保育環境の実現など、制度面のさらなる充実を図ります。行政の役割は、市民が心豊かに暮らせるまちづくりであり、その暮らしを支えるための基盤づくりです。豊かな自然の心地よさと都会の利便性を兼ね備えた「理想のまち」を実現すべく、皆様一人ひとりの想いを大切にしながら、さらに精進し、夢と活力にあふれた和光市の未来を切り拓いていきたいと思います。

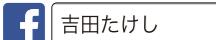
「ブログは、2011年2月から毎日更新しています。」

＜和光市議会議員 吉田たけし 4つの柱＞

- 新倉・下新倉地域へ中学校の早期建設を推進します。
- 保育園の新設や病児保育、延長・夜間保育を推進し、保護者の就労を支援します。
- 農業・農作物のブランド化を図り、地域の活性化を図ります。
- 北側発展のため、都市計画道路、区画整理事業の早期完成を目指します。

市政に対するご意見・ご要望、なにかの時には、なんでもご相談ください。みなさんと一緒に考えていきます。

<http://www.takechan-yoshida.jp>



吉田たけし



@yositake8



「吉田たけし後援会」入会のお願い

この会は、吉田たけしさんを中心に明るく、楽しく、元気なまちづくりを目的に、会員相互の研修と親睦を行っています。どうぞ気軽にご入会ください。

吉田たけし後援会 会長 柳下茂

〒351-0111 埼玉県和光市下新倉4-15-1
TEL 048-424-3517 FAX 048-462-9369

お名前
ご住所
ご連絡先電話番号
携帯
メールアドレス

吉田たけしの 和光市政展望

1 より“充実”した教育体制の実現に向けて

- 下新倉小学校に続き同地区での中学校建設を目指し、建設用地の確保・建設計画を推進します。
- 市内の小・中学校に防犯カメラを設置し、子どもたちの安全を守ります。
- 未来の可能性を広げる子どもたちの英語力向上ために、様々な取り組みを行います。
- 部活顧問教員の過重労働問題を解決するために、複数校合同部活や地域スポーツクラブとの連携など、新たな部活の指導体制を創ります。



2 高齢者がいきいきと“安心”して暮らせる地域社会へ

- 一人暮らしの高齢者宅に受託用火災報知器を設置し、出火原因となる可能性のある場所をチェックするなど、防火対策を強化します。
- 高齢者の住宅火災による死傷を防ぐために、火災報知器が確実の適正な管理・確認を徹底します。
- 一人暮らしのお年寄りと子どもたちが交流できる場をつくり、笑顔を増やします。
- 高齢者の自動車免許自主返納を促進するために、車がなくても生活できるような地域社会を構築します。

3 地域の“活力”をアップさせ、さらなる魅力を創出

- 農家の高齢化や人手不足を解消し、障がい者には活躍の場を与える「農福連携」を推奨します。
- 和光市産の農産物に目印となるラベルシールを張るなどの取り組みで「地産地消」を促進します。
- 東大阪市が実践した「ファームマイレージ」を取り入れ、農業への参加意識を消費者がもてるよう努めます。
- 農業に関し「地域全体で生産者を支えよう」という意識向上を目指し、農業体験や農産物を使ったイベント等を積極的に実施します。



- ### 4 子どもたちすべての“未来”をサポート
- 学校教育だけでなく学習塾やスポーツ教室の授業料に対しても、一定額を助成する制度の導入を目指します。
 - 栄養に偏りがある子どもに対し「子ども食堂」で支援し、「バランスのとれた食生活」をサポートします。
 - 保育士不足を解消するために、保育士の資格を持ちながら仕事をしていない「潜在保育士」の職場復帰を後押しします。
 - 子育て中の女性が交流し、悩み事の相談や息抜きができる場所をつくります。

5 埼玉県西部の“玄関口”にふさわしい街へ

- 2020年東京五輪・パラリンピックに向けバスターミナル構造など、和光市駅北口駅前の整備を進めます。
- 公共交通網が不足している北インター地域に、バス路線を新設することを目指します。
- 市内にまだ多くの危険な道路、交差点、狭隘道路の改善に取り組みます。
- 北口駅前広場に和光市のシンボルとして、世界的に評価が高い草間彌生さんの作品のモニュメント設置を実現します。

吉田たけしが耕してきた和光市の「いま」と「これから」

今まで委員等色々経験させて頂き良いところも悪いところもみてきました。なにかの時には、なんでもご相談下さい。みなさんと一緒に考えていきます。

■次世代を創る『教育・子育て』に夢と力を

- 新倉・下新倉地域の中学校建設を推進します。
→下新倉小学校が平成28年4月に開校。
- 保育園の延長保育や全小学校での『放課後健全育成事業』をさらに充実させます。
- 不登校の子供たちの居場所づくり、成長を支援します。
→下新倉児童センター、本町小学校において対応。
- 待機児童ゼロを目指し、保育所の新設や夜間保育の実施を推進します。
→小規模保育施設の誘致に協力し、待機児童解消に向け積極的に活動しました。
- 病児保育施設を設置し、保護者の就労を支援します。
- 通学路の整備、交通指導員の増員によって、安全対策を強化します。
→下新倉小学校整備に合わせて、周辺道路への路面標示設置や、信号機を設置し子供の通学路の安全確保をしました。



■安心して暮らせる『私たちの街』へ

- 福祉・医療・教育を充実させ、お年寄りや障がいのある方、子供たちに優しい街をつくります。
- 警察と地域社会の連携を図り、防犯対策を強化します。
→2015年に発生した熊谷での男女6人殺害事件は、警察の情報伝達の在り方が問われたため、朝霞警察署と自治会連合会と「犯罪情報の住民提供等に関する協定」を締結し、警察署から提供される防犯情報を防災行政無線、和光市ホームページ、和光市ツイッターなどで発信
→「和光市地域子ども防犯ネット」の代表として市内全域一斉パトロールを実施し、「子供たちを加害者にも被害者にもしない」を合言葉に市内全域で延べ1,000人以上の方にご協力していただいている。
- 防災対策の一層の強化により、安心・安全な街づくりを推進します。
→近年、短時間で狭い範囲に降る局地的大雨が増えており、市内においても平成26年6月25日に1時間に約105mmの大が降り、各地で被害が発生したため、この地域を中心に土壌ステーションを設置しました。
- 地域が一体となって支える高齢者介護、障がい者支援を推進します。

- お互いを思いやり助け合う、『あたたかい街』を目指します。
→誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりを目的に、地域住民が自発的に課題を取り組むための組織として、概ね、各小学校区にひとつの「地区社会福祉協議会」が設立が推進されています。
現在、5つの小学校区に地区社協が設立されました。
今後も、各小学校区に地区社協が設立されるよう事業の推進を図ります。
 - ・第三小学校区地区社協（平成29年2月設立）
 - ・本町小学校区地区社協（平成29年3月設立）
 - ・西牛房・桜地区（第五小学校区）地区社協（平成29年6月設立）
 - ・グリーンすまいる（下新倉小学校区）地区社協（平成30年3月設立）
 - ・北原ふれあいの会地区社協（平成30年3月設立）



■信頼できる『地域社会』づくり

- 民間企業やNPOと力を合わせることで、市政のスリム化を図ります。
→福祉分野では、包括支援センター、グループホームなど、民間企業やNPOと指定管理や業務委託その他協力、支援をしながら施設運営等を実施し、市政のスリム化を図っています。
- 地域活動団体や市民活動団体などからの企画・提案をもとに、団体と行政が地域課題の解決に向けて力を合わせて行う事業として「協働事業提案制度」を実施します。
平成30年度の市民提案としてNPO法人わこう子育てネットワークから「多文化子育て支援事業～子育て通訳サポート～」が採択され、平成31年度予算に計上し確定すれば事業が実施されます。
- 『コレクティブインパクト・リスト』市民、行政、民間事業者、NPO等が異なる立場を超えて互いにノウハウを持ち寄ることで社会の課題を解決します。
- 定年後に経験と知恵を生かし、活躍できる場所づくりを推進します。
→高齢者雇用の推進等のため定年退職者のうち、再任用職員として改めて職員として採用。
地方公務員法第28条の4の規定により採用される常勤職員は10名（うち、任期を更新したもの6名）、同第28条の5の規定により採用される短時間勤務職員は7名（うち、任期を更新したもの7名）※平成29年度実績
- 市政の情報公開を徹底的に行います。
- 観光PRや農産物のブランド化により、活力のある街をつくります。
→和光の風土、歴史、素材などを活用したアイデアあふれる商品等や製法、品質、機能などの商品特性に優れた和光市が誇る商品等を和光ブランドとして認定し、広く市内外に周知し、和光ブランドのブランドイメージの定着と向上を図ることにより、市内で生産等される商品等の付加価値を高め、和光市の産業及びにぎわいのあるまちづくりを目的として地域活性に努めている。
- 『体験型農園システム』を拡大し、地域の活性化を図ります。
→トウモロコシ畑や小麦畑、水田など和光市内の農業者自らが運営する耕作地を活用し「体験型農園」を実施していますが、私のトウモロコシ畑についてもこの「体験型農園」として市と協力して地域の活性化を図りました。



■快適な『都市整備』と豊かな『環境』

- 区画整備事業計画の早期実現を推進します。
- 公共交通網を整備し、バリアフリーの街を目指します。
- 世代をこえて交流できる公園や地域活動センターの建設を推進します。
→平成27年度に閉園した上谷津児童遊園地に代わって市民ワークショップなどを経て平成30年7月に上谷津公園として新たに生まれ変わってオープンした。
- 平成26年度に造成工事に着手した荒川右岸下水処理場内の人工地盤を活用したアーバンアクア公園について、平成30年10月に「和光市スポーツアイランド（愛称：わこスポ）」として部分供用を開始した。
- 和光市北インター土地区画整理事業により生み出された街区公園を活用して医療・福祉・健康を地域で支えていくことを念頭に置きスタートしたヘルシーパーク構想について産学官によるワーキングを経て、多世代が楽しめるクローバーパーク（かずは公園／ふたば公園／みづば公園／よつば公園）が平成29年8月にオープンした。
- 公共施設を市民のニーズに合わせて、柔軟に対応できる仕組みをつくります。
→児童センタープールの建て替えに当たり、周辺公共施設を一体的に再整備するとともに、公共施設との相乗効果が期待できる民間施設を誘致し、官民のパートナーシップにより、効果的に市民サービスを提供する交流拠点「広沢複合施設」の整備運営事業者を平成31年3月に決定。
認定こども園などのエリアは平成33年4月、児童センターや市民プール、民間施設を含む北エリアは、平成34年1月の供用開始を目指す。
- 美しい緑と水を守り、健やかに暮らせる街をつくります。

